

令和7年度 第3回公民館運営審議会 議事概要

日 時：令和8年（2026年）3月18日（水） 19時00分～20時30分

会 場：豊中市立中央公民館 1階 集会場

出席者：秋山 京子、大里 ルミ子、大濱 浩子、奥村 旅人、津田 克裕、野村 恭代、
松山 鮎子、松山 繁樹

欠席者：十河 秀敏、渡邊 浩

事務局：本田 光直（中央公民館長）、松本 貴幸（中央公民館主幹）、山岸 明子（螢池公民館長）、橋本 慶（庄内公民館長）、江川 勉（千里公民館長）、前田 真吾（中央公民館副館長）、守屋 浩一（中央公民館）

傍聴者：3名

案件：

- ① 令和7年度公民館講座（10月～）の実施報告について
- ② 令和8年度事業計画・予算について
- ③ その他
 - ・公民分館協議会全体交流会について

資料：

○次第

- 資料1 令和7年度事業評価（公民館・連携課事業【10月～2月分】）
- 資料2 令和8年度公民館年間事業計画
- 資料3 令和8年度公民館講座実施にかかる予算
- 資料4 令和7年度豊中市公民分館全体交流会プログラム

1. 開会

2. 案件

- (1) 令和7年度公民館講座（10月～）の実施報告について

<事務局より資料1の説明>

●庄内公民館の「イエベ・ブルベ診断」はとても興味深いもので面白かったが、事業区分が「人権啓発」は無理があるので、適した事業区分に変えてもらいたい。パーソナルカラーレスも同様である。

◇事業区分を検討いただきたい。

●中央公民館のサイエンスカフェはズーム配信とのことだが、ライブだけか。後で視聴できないか。

■会場と同時開催を目的に実施しており、アーカイブ等を残して後日視聴することは考えていない。

●市民の参加率が50%以下とのことだが、阪大と共催なので、それでも構わないのではないか。センチュリー交響楽団と共催の「まちなかクラシック」も、阪急のトックに載せていて大々的に宣伝していて市民はもっと少ないようなので、それはそれで豊中市の魅力を外部に発信していて良いと思う。

■阪急電車にもチラシ広告を出しているので、市民に限ったものでなくても良いかと考える。

●「くらしの保健室 ほっとライン庄内」は目新しい企画なのか。

■公民学連携事業だが、毎月1回開催している。来ているのは医者や包括の方で。ふらっと来て相談できるようにしている。

●北丘でも同じような「保健室」について聞いたことがある。包括が主催して包括の場所でやっているものは高齢者しか来ない。公民館での一般向けの開催は良いと思う。他の公民館でも開催したら良いと思う。千里の「まち歩き」の参加者の年齢や男女比はどうか。

■男女比は今わからないが、年齢層はほぼ50～70代で、若い人は来ない。

●定員をオーバーしているという感じではないのか。

■街歩きのボランティアの人数の関係で定員を設けていて、いつも倍率が高くなっている。

●申込みの倍率がこの資料ではわからないので、倍率を載せれば面白いと思う。

◇参加率は載っているが、申込みの倍率が出ていれば参考になると思う。

●中央公民館の登録グループの体験講習会全般に関して気になるのが、参加率が少ないが事業PR、自己評価は比較的高い。その他の事業と同様に捉えて良いのか。そうすると違和感

があるが、体験講習会の課題などを教えてほしい。

■登録グループも他の講座と同じ基準で評価しているが、比較しづらいと思う。自己評価については広報をどれだけやったかが評価基準であり、広報誌、HP 掲載は必須で、さらにチラシを配布したり他の広報手段を加えていくことで評価が上がっている。体験講習会は登録グループのメンバーを増やすために行っており、広報誌掲載は必須条件なので、結果として評価が高くなっている。参加者が少なくても、参加者満足度については実際に参加した人は満足してくれており、満足度も高くなっている。登録グループへの新規参加については待っていてもなかなか来ないので、広報に載せて体験講習会を行っているのだが、参加してもなかなか会員になってくれる人は少ないので、そこが課題かと考えている。

●状況は理解したが、新規メンバー募集が目的となると、内容に書かれている「社会還元活動のひとつ。学びの循環の機会とする」とはちょっと違うような気がする。そう考えると参加者が少ないのは寂しい気がするが、前者の役割だとしたら 1人でも良いのかもしれないし、その辺りの判断が難しいと感じた。

■公民館側としても、単に広報するだけではなく、他の手段も考える必要があると考えているので検討したい。

●講師謝礼金だが、中央公民館の「音楽心の旅」は 66,690 円と高い。その下も 52,650 円と高額であるが、算定根拠を教えてほしい。

■ここに挙げている特任教授などのほかに複数の教員が参加しているので、この額になっている。

■大阪音楽大学から来ていただいており、教授や教員に来てもらっているため高くなっている。

●複数いるなら、講師欄は「○○○○ほか」と書いてほしい。

●各公民館でこのような様々な講座をしていることを知らない人もいる。中央公民館がどこか知らない人もいて、いろいろやっていること知らない人もいる。「楽しくわかるスマホ講座」は参加したかった。北部地域系の「夢フェス」は誰でも参加できるのか。広報誌やホームページを出しているのか。

■そうである。

●自分が把握してみんなに教えてあげないとだめだなと思う。小学生が一人で中央公民館に来て遊んでいるのを聞いたことがある。学校行かないでここに来ているのか。そういう子が来る可能性があるから、繋がっている方が良いかと思った。もう1年経ってしまったので反省している。

■キッズスペースを昨年度大きくリニューアルした。平日の午前中はあまり人は来ないが、それでも1、2組は保護者と来ている。公民館の講座を受けるとかではなく普通に遊びに来ている。土日も職員はいないが公民館は開いていてたくさん来ていると聞いている。就学前検診の会場になっているが、そこで知ってくれることもある。

●このような場所が増えたらよいと思う。

◇このような場所だからこそ気づけることもある。豊中市は地域福祉について全国的にも有名で、社会福祉協議会が中心に気になる世帯は把握しているかも知れないが、それでも不足している情報があるので、情報共有・交換できるしくみがあれば有意義だと思う。組織的にどうなのかわからないが、重層支援の会議の中に今後公民館が入っていくと可能性が広がるのではないか。

いただいた貴重なご意見については、次年度ご検討いただきたい。

(2) 令和8年度事業計画・予算について

<事務局より資料3、資料2の説明>

●マチスタについて、参加者の感想を知りたいと以前言ったことがあるのだが。予算4,000万円は金額として大きいのか適正なのか、先ほどの説明、資料ではわからない。判断材料が少ない。

■今年度は3,100万円で、1人あたり年間28回、時間数は45分の2コマで行っている。単価1人1時間当たり1,660円くらいである。塾と比較しても安価だと認識している。次年度予算が増えるのは指導員に対する人件費が高騰しているからである。参加人数については、4年目になるので、当初だいたい600人くらいから1割ずつ減ってきている。昨年度は560人くらい。中学生は市内に1万人くらいいるので、6%の利用率となっている。決して高い利用率ではないが、そもそも家庭学習の癖をつけてもらうことを目的としており、塾とは違うものである。家庭でもしっかり勉強できるようになったという声もあり、一定の効果はあるものと認識している。したがって家庭での学習癖がつけばマチスタへの参加は減ることに

なる。しかしまた新たな生徒が入ってくるという繰り返しになる。

●学校からの紹介、推薦はあるのか。

■募集については市のホームページで行っているが、教育委員会が発信する中学生の保護者向けアプリによって周知している。学校の三者懇談でもチラシを渡してもらっている。

●事業者はずっと同じなのか。入札しているのか。

■1年ごとに選定している。昨年から入札に切り替えた。

●今のお話だと、900万円は人件費の高騰とのことだが、最低賃金は1.3倍になっていないので、単純に考えれば開催数が1.3倍になったとか、あるいは、時給制なので雇われた時間数が1.3倍になったとしか考えられないがどうなのか。

■そうではなくて、予算組みする時に業者から見積もりを貰うのだが、見積額が高くなってこうなった。実施方法や回数は基本的には変えていない。事業者からは「人件費が上がった」という説明を受けている。入札で決定するので、金額は下がると思われる。

●これから入札にはいるのだろうが、先ほどの説明では、900万円増加という点についてはやや情報不足である。時給が1,000円ちょっとで900万円増加とは、事業規模がひとつ市が増えるくらいの規模だと思うので、それは業者選定の甘さにつながると思われるので、説明が不足していると感じた。

●少しでも必要としている生徒に気づいてもらって参加できるようにしていただいたい。

◇素晴らしい事業だと思う。こういう場があると救われる生徒もいるのであるが、事業としての質は落としてはいけないと思う。しかし単純に900万円上がるのは不可解だが、予算なので、プロポーザルの時に提案書などもしっかりと確認してもらいたい。金額重視もわかるが、必要な所にはお金はかけてもらいたい。かなり金額が上がっているので慎重に判断すべきだと考える。

●900万円上げて出したのは現在と同じ事業者か。

■何社かから見積もりが来ており平均である。一番高いということでもない。今までの事業者も金額は上げてきている。

●重要なところなので、選定についてはよろしく願います。

●年間事業計画だが、各公民館がどんな講座をしているのか一目で判るのだが、これはどこかで発表しているのか。計画なのでどこまで出せるかというところもあるが。していないなら、出来ないのか。

■審議会の資料として出しているが、発表はしていない。あくまで予定なので変わることはあるが、ホームページで公表することは可能である。

◇もし予定の掲載が難しいなら、前年度実績一覧を掲載したら参考になるのではないか。検討してほしい。

(3) その他

- ・公民分館協議会全体交流会について
事務局、津田委員（公民分館協議会会長）から説明。

●今年は審議会の委員は誰か来られたのか。

■今年は誰も来られていなかった。

●来年はご都合つけばぜひ来ていただきたい。

●広報関係の部会ではどんな話になったのか興味がある。広報については検討の余地があると思われるので、どういった解決策が出たのか、また教えてもらいたい。

◇後日で良いのでまた共有していただきたい。

●私も公民分館活動については関係しているが、属している分館の人に、審議会の委員に就任しているが何かないと聞いたら、多くの利用者が市の広報紙を熱心に見ているとの事。どんな公民館講座があるか期待して見ている。特色ある取組みや、時代に即した課題に向けての事業など、楽しみにしていると聞いている。そこで、職員ももっと地域に足を運んで一緒に活動してもらいたい。そういった中から地域のニーズを吸い取ってもらいたいと言われている。登録グループの代表をしているのだが、今まで館は「箱」だと思っていたが、いままで話を聞いている中で、社会教育を担う施設であることを再認識した。地域還元ということであれば、団体を運営していくための人集めとして体験講習会も行っているが、地域の高

齡者施設でコーラスしたり社会還元活動も出来ていると思う。

◇事務局から何かあるか。

■今年度最後の審議会となる。次年度もよろしくお願ひしたい。

◇本年度最後の審議会なので、皆さん順番に一言ずつご挨拶をお願いします。

(順番に挨拶)

以上